

# 相続争い中にがん治療のため入院 先生に「万が一」宣告された。

## 思い熱き“再生請負人” ③

——会社を継ぐところで苦勞されたそうですね

川井 家族の間で相続争いがあり、母とも姉ともめましました。争った結果、姉にも申し訳ないことをしたと思っっています。私は本を書き、本を通じて多くの方々と知り合いました。本好きになったのは姉のおかげです。幼い頃、よく姉に本を読んでもらい、小学校に入る頃には、ひらがなもカタカナも読めました。姉が本を読んでくれたからこそ今の私があるな、と感謝しています。

——その間にも大変なことがあったそうですね

川井 徳島で病氣療養をしたんです。平成3年頃で、半年ぐらいい入院していました。

——どうい病氣だったんですか

川井 絨毛がん。今では珍しいのですが、妊娠に関

# ゆとり

YUTORI

ノブレスグループ代表 **川井徳子さん**



(松永渉平撮影)

わる病氣です。大部屋に入院し、6人部屋の端で半年間共同生活しました。普通は弱い抗がん剤から使つのですが、最初から5種混合という強い薬を投与されました。気をつけないと、ショック死するかも分からないほどだそうですね。

——抗がん剤を投与されることは、とてもつらいですよ

川井 病院から「点滴するので、付き添いしてもらえませんか」といわれました。主人は子供の面倒をみており、当時相続争いをして

いたから、お金もない。他人には家族がついていますが、「自分で何でもしますから大丈夫ですよ」といいました。私は元気で、トイレも一人でいったので、看護師さんはびっくりしていました。

——当時はおいくつでしたか

川井 女の大厄、33歳でした。点滴は厳しかったです。吐き気が止まらないし、髪は2週間で全部抜けました。朝、気付いたらベッドに髪の毛がある。まだ33歳だったから、ショックでした。

——手術もされたのですか

川井 レントゲンで胸にかけがあるといわれ、子宮と卵巣片側を摘出し、肺の部分切除をしました。

——すごい大手術じゃないですか

川井 手術前の説明では、抗がん剤で血液の状況がよくなる、赤血球や白血球の

### 新 西 関 笑 談



値が手術に耐えられるラインにのっていないと。そのために輸血しましょう。一時的には手術ができますね。でも今度は輸血の量が多すぎて熱を出し、延期になりました。主人にも私も、万が一のことを考えて、会える人には会っておいたほうがいいと先生から言われました。

——つらい宣告ですね

川井 本人は平気です。まな板の上のコイですよ。それより子宮の中を清掃しないといけなくて、それに麻酔を打ってもらえない。ものすごくつらかったですね。

——手術は子供を産んでいたから決断したのですか

川井 子供がいたからこそ、子宮摘出を決断できたんだと思います。その後、通院はすつとさぼっています。でも健康診断には行っています。

——その経験は仕事に影響を与えていますか

川井 「まあ何とかなるやん」って腹をくくるといふか。神様に「やり残しがあるから帰れ」と言われた気がして。おまけの人生を生きている気がします。

(聞き手 中島高幸)